

職員による自己評価

A環境面

- 学年が上がり利用児童の成長に伴い、スペースが狭く感じるが増えている。
- 基準配置はできているが、支援を行う、送迎などで人手不足を感じることはある。

B児童への支援内容

- 様々な活動プログラムを事業所としては用意しており、実施していきたいが、その日の職員体制によって活動にばらつきが出てしまうことがある。公園活動がメインになってしまう。
- 職員不足により、活動プログラムが固定化されつつある(公園活動が中心)。
- ある程度範囲を決めた上で、チームで活動を考えることができている。
- 活動を立案する職員が少ない気がする、常勤職員、パート職員関係なく意見交換する場が欲しい。

C関係機関との連携

- 部会には積極的に参加をしているが、他機関との連携は少ないように感じる。
- 学校や計画相談などとは連携を取ることができている。
- 他放デイとの連携が少ないと感じる。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ピースだよりや Instagram にて活動の情報発信を行っている。
- 送迎時の引継ぎを丁寧に行っている。
- 送迎時の引継ぎが、添乗職員によってムラがある。
- 個別支援計画はご家族に丁寧に説明できていると感じている。

保護者による評価

A環境面

- 十分なスペースがとられている。
- 若干狭いと感じる。

B児童への支援内容

- 調理活動を増やしてほしい。
- 公共交通機関を使用した外出、お買い物など今後も続けてほしい。
- 公園に行く活動が固定化されていて運動する機会が多くてありがたい。
- 身体を動かすプログラムが多くてありがたい。
- 季節行事を取り入れて欲しい。
- スタッフとの会話を楽しんでいる。
- ピース近隣、法人本部周辺の清掃活動等を行ってほしい。
- 水遊びを増やしてほしい。
- 創作物を家庭で飾っています、今後も続けて欲しい。

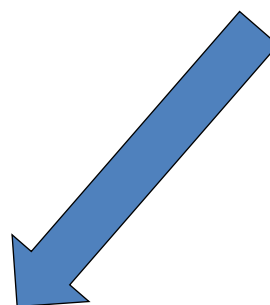
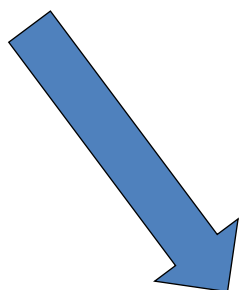
C事業所からの情報発信

- ピースだよりや、Instagramなどで活動の様子を知ることができる。
- 休みの日の朝の送迎時間を知りたい。
- 帰り送迎時丁寧に引継ぎをしてもらえる。
- 個別支援計画の説明が丁寧。

D非常対応

- 定期的に避難訓練を行ってくれている。

※アンケート調査の質問項目にない、意見に関しては、日頃のご家族とのやり取りの中でいただいたご意見も含まれています。



事業所内での分析

【共通点】

- 身体を動かすプログラムを定期的に行っている。
- 買い物や外出などの社会参加の機会が多くある。
- 事業所とご家庭で連携が取れている。
- 個別支援計画の説明が丁寧。

【相違点】

- 季節行事を取り入れて欲しい。→季節行事は行っているが、利用児童全員が参加できていない現状がある。
- 職員評価では、プログラムの固定化(運動に偏った活動)について懸念があるとされているが、保護者からは体を動かして良いといった評価を得ている。
- 水遊びを増やしてほしい。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- 身体を動かすプログラムが多い。
- 公共交通機関を利用した外出、買い物など社会参加活動がある。
- 外出先が多岐にわたり、普段できない経験を提供できている。
- 個別支援面談に時間を掛けるだけでなく、それ以外にも随時相談があれば、時間を設け面談、電話面談の機会を設けている。

事業所の改善点

- Instagram やピースだよりで活動の報告を行っているが、事業所内の細かい連絡事項や活動の振り分け方法等、職員間で共有できていないことが分かった。今後は上記以外にも活動の趣旨や参加者などより詳しく情報共有を行っていく必要がある。
- 季節行事に関しては可能な限り、契約児童全員が参加できるようにプログラムを計画する。
- 配置基準は満たしているが、職員の不足感があるので運営体制の見直しが必要か。
- 近隣の支援学校以外への送迎が少ない。
- SST が少ない。

事業所の改善への取り組み

- 送迎時間については、当日の利用児童、職員体制で変更が出てくる為、概ねの時間を伝えることで朝の準備に役立てていただくようにする。
- 職員間の情報共有について、ミーティングだけでなく、児童が通所していない時間にも情報共有がおこなえるように、現行の職員会議に加え、パート職員含む全体参加の職員会議を三ヶ月に一度開催し情報の共有を図る。
- ADL から SST までその児童に必要な支援を増やす。
- 事業所外の研修に参加し、各職員の支援スキルの向上を図る。
- 季節にあった活動プログラムを増やす。活動プログラムを構成する担当職員をつくり、その職員を中心に会議を行う。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

事業所が求める支援とご家族が求める支援が必ずしも一致しない点がみられた。運動プログラムについては、ご家族には好評だったが、事業所としては、ご利用者の将来を考えると社会性を養うプログラムも必要と考える。改善に向けて、ご家族の希望も聞きながら総合的に判断し、ご本人にその時に必要なプログラムを提供できるよう取り組んでいきたい。

また社会参加の場を多く獲得するために、近隣のお買い物や公共交通機関を使用した外出や長期休みの社会資源を活用した外出等のご家族から評価され、事業所としても力を入れている部分なので、今後も継続し、より良い活動を提供できるように取り組んでいきたいと考える。

事業所名 _____ ピース和田町
担当者 所長 原 駿介 _____